

雜 錄

| 目 | 次 |
|----------------------|---|
| 最近刊行誌掲載参考記事主題目次…………… | 680 |
| 特許抄録…………… | 682 |
| 雜 報…………… | 689 |
| | ○大東亞戰爭日記摘要○各國時局情報○業界雜報○昭和17年3, 4月中に發布された主要法令目次○工業品規格統一調査會に於ける4月中に開催の委員會名並に其議題 |

新刊雜誌記載参考記事主題

1) 製鐵原料

- 固體懸垂重液浮沈選鑛法 山田賀一 探治 20(昭17)179
 被銅屑の處理に就て 西原清康 探治 20(昭17)188
 ニッケル土鑛の利用に關する研究 谷山巖 金屬 12(昭17)403
 特殊鋼製造用原料鐵鋼對策の私案 山田賀 鐵鋼統制 2(昭17)5號
 朝鮮に於ける水鉛鑛床の鑛床地質學的考察(2) 近藤忠三 朝鑛會 25(昭17)163
 東亞共榮圈に於ける南洋の地質と地下資源 II. 東印度諸島 三本杉巳代治 朝鑛會 25(昭17)188
 福岡市附近の水鉛鑛床 松隈壽紀 九鑛會 13(昭17)141
 秋田市外新屋に於ける彈性波探鑛に就て 伊藤徳之助・吉山良一 九鑛會 13(昭17)151
 蘭印の鑛産資源(雜錄) 木下龜城 九鑛會 13(昭17)171

2) 耐火材並に燃料及び驗熱

- ピッチの高溫に於ける比熱と比重に就て 海野三朗, 製鐵研 178號(昭17)206
 燃料の話(講話) 小松茂 製鐵研 178號(昭17)3
 洗炭雜題 牛尾廣惠 九鑛會 13(昭17)161
 本邦産産煤土及びその工業的應用に關する基礎的研究(X) 河島千尋・素木洋一 窯業會 50(昭17)203
 各種生粘度の熱分析に就て(第1報) 山内俊吉・加藤左織 窯業會 50(昭17)211
 窯業的方法論に立脚したる含チタン酸化鐵電極の研究(第5報) 鈴木信一・鶴飼大三 窯業會 50(昭17)221
 平爐に於ける珪石煉瓦の損傷原因と自珪石煉瓦の製造法に關する研究に就て 大野田剛 耐火材料 35號(昭16)197
 耐火物製造に於ける平衡狀態圖の適用 稻村泰 耐火材料 35號(昭16)208
 珪石煉瓦原料用珪石に就て 高良義郎 耐火材料 35號(昭16)231
 平爐に就ての座談會 耐火材料 35號(昭16)259
 世界の石炭資源に就て 山根新次 石炭常識講座
 炭礦の經營に就て 藤井暢七郎 石炭常識講座
 石炭の種類と品質 岡新六 石炭常識講座
 採炭實技 佐野秀之助 石炭常識講座
 我國人造石油事業の概況とヒアーク式油化法 溪陽生 日滿支石炭 24號(昭17)
 昭和16年に於ける燃料界の回顧 動力 15(昭17)111
 東亞に於ける石炭需給問題 田口良明 動力 15(昭17)171

- 東亞共榮圈に於ける石油 大村一藏 動力 15(昭17)184
 泰國の動力資源と其の利用 七里義雄 動力 15(昭17)186

3) 鉄鐵及び鐵合金の製造

- 熔鑛爐ガスの煙塵量並に水分量に就て 福本二男 製鐵研 178號(昭17)191
 鐵合金に關する懇談會 電化 10(昭17)155

4) 鋼及び鍊鐵の製造

- 熔鋼の脱硫に關する文獻(資料) 製鐵技術 2(昭17)433
 鋼の脱硫に就て(1)(講義) 益田義三 製鐵研 178號(昭17)123
 製鋼法の物理化學的研究(VI)(講義) 柴田善一 金屬會 6(昭17)106
 電氣爐熔解法及び脱硫法 音谷登平 鑄物 14(昭17)81

5) 鐵及び鋼の鑄造

- キューボラ標準操業法(第2回研究會連記録) 林田三郎・宮崎基繁 鑄物 14(昭17)67
 本邦及び滿鮮地方に産出する主要鑄物砂原料(6) 武智馨 鑄物 14(昭17)96
 キューボラ送風脱濕に就て 天利義昌・廣田博次 機械會論文 8(昭17)30號 IV-7

6) 鐵及び鋼の加工

- 電弧熔接用被覆極棒の被覆に含まれたる硼砂の動作に就て 熊澤尙文 理化研報 21(昭17)211
 肌焼Cr鋼の緩と滲炭に關する研究 上田滿正 神鋼 6(昭17)21號
 焼入讀本(3) 高瀬孝夫 金屬 12(昭17)431
 軌條の話(2) 中島龍一 鐵鋼統制 2(昭17)5號
 切削工具の研磨に就て 深谷保 大阪鐵工 6(昭17)20號
 被切削性に就て 小柴定雄 日立評 25(昭17)240
 バイト夜話 小松義雄 國民工業 5號(昭17)

7) 鐵及び鋼の性質並に物理冶金

- 強磁性結晶内電子のスピン反轉確率に就て 武藤俊之助・野上茂吉郎 理化研報 21(昭17)231
 鼠鑄鐵組織の特異性に就て 飯高一郎 理化研報 21(昭17)223
 強腐蝕による特殊鋼の検査 錦織清治 電製鋼 18(昭17)171
 強靱クロム鋼の研究 市來崎進 神鋼 6(昭17)21號
 規則格子 Ni_3Fe , Ni_3Mn の生成と硬度の變化 茅誠司・早洋・熊坂康治 金屬會 6(昭17)188

不感磁性鋼に関する研究 (I) 1-不感磁性鋼の主成分含量と磁化との関係 遠藤信 金屬會 6 (昭 17) 199

X 線に依る復元現象の研究 住友元夫 金屬會 6 (昭 17) 209
鋼の結晶粒度と諸性質 (II) (講義) 村上武次郎 金屬會 6 (昭 17) 101

化學反應速度論から見た固態金屬の流動 (II) (翻譯) (資料) 金屬會 6 (昭 17) 112

X 線に依る内部應力測定の結果に就て 西山卯二郎 機械會論文 8 (昭 17) 30 號

星型發動機のクランク軸の伸縮振動に就て 山室宗忠・水間喜久雄 三菱發研報 5 (昭 17) 147

可鍛鑄鐵の材質に対する一考察 南波榮吉・橋本明 日立評 25 (昭 17) 236

金屬の衝撃抵抗に関する研究 (第 2 報) 淺川勇吉・水谷壽・大陸科學院彙 6 (康 9) 39

8) 非鐵金屬及び合金

白金-白金・ロヂウム熱電對の製造研究 後藤良亮・野村幸平 神鋼 6 (昭 17) 21 號

電解マンガンの結晶構造 篠田軍治・天野嘉次 金屬會 6 (昭 17) 196

アルミニウム合金軸受材料の研究 (II) 水野昂一 金屬會 6 (昭 17) 214

遠心冶金法に依る Al 層金の精製に関する研究 (I) 大日方一司・寺澤正式・落合守 金屬會 6 (昭 17) 234

ドイツに於けるアルミニウム及びその合金に関する最近の進歩と經驗 小玉美雄 採冶 20 (昭 17) 191

ベリリウム青銅の特性と用途 香取三郎 金屬 12 (昭 17) 417
マグネシウム合金の熔解と砂型鑄物の製造 萩野寂譯 金屬 12 (昭 17) 431

銅代用アルミ軌條ボンドの試作 野村弘 日立評 25 (昭 17) 208
アルミ架空送電線 木村義太 電氣協會 243 號 (昭 17) 242

アルミニウム軸受合金の成績に就て 坂本雪太郎 電氣協會 243 號 (昭 17) 299

滿洲産粘土類より純アルミナの製造研究 (X~XI) 有森毅 工化

誌 45 (昭 17) 370

9) 化學分析

化學分析室用排風機に就て 伊藤孝吉・久永富弘 金屬 12 (昭 17) 435

10) 工業經濟及び政策

濠洲鐵鋼業概況 鐵鋼統制 2 (昭 17) 5 號

濠洲鐵鋼石資源 市川弘勝 鐵鋼統制 2 (昭 17) 5 號

濠洲の石炭資源 今村成男 鐵鋼統制 2 (昭 17) 5 號

輕金屬工業の増強方策 光木耿二 全ハガネ商聯 4 (昭 17) 4 號

朝鮮, 臺灣, 樺太の石炭事情 金子辰太郎 石炭常識講座

滿洲に於ける石炭事情 三溝又三 石炭常識講座

北支蒙疆の石炭事情 小川彌太郎 石炭常識講座

石炭の生産と物資配給 茂野吉之助 石炭常識講座

石炭の需給調整と販賣統制 澤田慎一 石炭常識講座

昭和 16 年度に於ける石炭統制會の事業に就て 植村甲午郎 日滿支石炭 24 號 (昭 17)

石炭統制會の機能 商工省燃料局 日滿支石炭 24 號 (昭 17)

大東亞の資源開發と日本の工業 田村民平 工業評 28 (昭 17) 5 號

南方磷礦開發と我が磷酸肥料工業 永井彰一郎 工業評 28 (昭 17) 5 號

東印度と石油工業 北見草三郎 工業評 28 (昭 17) 5 號

濠洲, 印度の鐵鋼工業の全貌 久徳邦雄 工業評 28 (昭 17) 5 號

鑄物工業と統制會問題の真相 多賀靜司 工業評 28 (昭 17) 5 號

11) 雜

新體制と鑛業 井上匡四郎 工學業 10 (昭 17) 137

鐵鋼部門勞務者の賃銀規制 (2) 太田東 鐵鋼統制 2 (昭 17) 5 號

荒銑集 番場恒夫 鐵鋼統制 2 (昭 17) 5 號

國防と石炭 山田清一 石炭常識講座

勞力の機械化 動力別第 60 號

ウラルに於ける木炭銑の製造

(I. Sokolov, Stal, 12 號, 1939 年, 14~17 頁) Ural 地方の年製銑高は現在 430,000t である。此の内 150,000t は酸性平爐へ, 50,000t は Ni-Cr 鑄物銑とし, 殘餘は主として鹽基性平爐へ使用され, 相當量は鑄物に向けられる。木炭銑 1t の生産には木炭 7m³ 即ち 945~980kg を要する。著者は木炭銑がコークス銑に優越する諸點を挙げ, 之を銑銑の本性或は遺傳性でありとし, 此の根源を製銑條件の相違に歸してゐる。木炭の反應性は特に大なる爲, 熔鑛爐内の鑛石は低溫度で容易に還元され, 還元鐵中には FeO の痕跡も留めず, 従つて他の酸化物が介在しない理由となる。此の事實が凝固時の銑鐵組織を決定する。低温であることと, 鑛滓成分の異なることが, コークス銑に比し木炭銑中のガス成分の少い原因である。最後に Ural 地方の鐵鑛床を記し, 木炭銑の製造に適當な低 P 低 S 或は Ti, Ni, Cr 等を含有する鑛床を挙げてゐる。杭木の資源を考慮し, 木炭の生産能力より年 1.5 百萬 t の木炭銑の製造は可能であると論じてゐる。(日鐵製鐵技總 2 (昭 17) No. 5, 475 (抄録))

酸性平爐に依る外輪鋼の製造

(E. C. Houston, J. of West Scotl. Iron & Steel Inst., 48 卷, 1940 年 10 月, 3~10 頁) 外輪鋼の製造に當り, 爐作業, 造塊法等の影響を論じてゐる。特に鋼塊肌は良好なるを要し, ビレットに鍛造後は皮剥ぎを行はない。この爲に上注ぎの鑄型は十分清淨とし, 鑄型内面には瀝青的溶液を塗布する。注入の際は 2~4 本の鋼塊は 1 組として同一上昇速度で鑄込む如くするが, 鑄型に依つて注入管よりの距離が異り, 冷却が早いものがある。依つて同一溫度で鑄込むときは上昇速度を大とする。經驗に依れば丸型鋼塊は龜裂を發生し易い。鋼塊の丸型よりの偏差は

$$\frac{\text{外接圓及び圓接圓直徑の差}}{\text{内接圓直徑}}$$

の値で示され, 此の値が小なる程, 龜裂發生傾向が減少してゐる。尙熔解, 精鍊等の作業を詳記してゐる。(日鐵製鐵技總 2 (昭 17) No. 5, 478 (抄録))